

医心 伝心

タイ、カンボジアの 公衆衛生、医療事情

富山県医師会常任理事 長谷川 徹

昨年11月、休暇をいただいてタイ、カンボジアを訪問してきました。目的は所属するロータリークラブの国際慈善事業として、水事情の悪いタイの集落に浄水器をプレゼント、設置したので、その贈呈式に出席するというものでした。

どちらの国も仏教国で、集落の中心には寺院があります。世界遺産となっている『アンコール・ワット』が有名ですが『ワット』とは現地語で『寺』を意味します。寺院のそばには寺院と同じ名前を冠した小学校があり、学校が人々の集いやコミュニケーションの中心となっています。

私たちが訪れた時、そろいの制服で正装した子供たちが歓迎してくれ、盛大なセレモニーを開いてくださいました。皆、純粹で透明感にあふれたキラキラした目を輝かせ、蛇口から汲んでそのまま飲むことができる水を、本当に喜んでくれました。

見渡す限りの平野に流れる川は、流れが緩やかで洪水が頻発します。遠くに見える山々から流れる水も、鉱物を多く含んだいわゆる硬水で、飲用にはろ過を要します。契約した現地業者が必要に応じ浄水器のフィルターを交換し、いつまでも安全でおいしい水が提供されることを願うばかりです。

東南アジア諸国の中でも比較的社会が安定し経済的にも発展しているタイに比べ、カンボジアは20～30年、振興が遅れているといわれています。長年の軍事政権による独裁や大量虐殺の負の歴史が原因とされていますが、実際に訪れてみると、街は活気にあふれ周辺国に劣らぬ、人々の生き抜こうとするパワーを感じます。そんなカンボジアに、私には二人の友人がいます。一人は日本食レ

ストランを開業し、もう一人は日本語学校を運営しています。いつか日本にわたり、技術を身につけ祖国に貢献しようと、覚えてたの日本語で挨拶する若者たちに愛おしさを覚えました。

さて本欄の使命である医療事情についてですが、今回私はカンボジアに建設されたばかりの、日本人が運営する病院を見学してきました。設立母体は特定非営利活動法人、ジャパンハート。理事長の吉岡秀人先生は小児外科医で、2004年からミャンマーで無償の医療活動を開始されました。先の戦争で地雷を踏み足を失った人や、枯葉剤などの化学兵器で先天奇形を持って生まれてきた子供、小児がんの患者が多く、誤解を恐れず言うならば小児外科にとっては少子化日本とは比べ物にならないくらいの症例の宝庫です。

最初は吉岡先生お一人で日本を飛び出し始められた事業でしたが、現地に赴いて経験を積もうと、今では若い医師たちが集ってくるようになったと聞きました。土煙の漂う野原の真ん中に、小学校を改造して建てられたというその病院には、トタン屋根を葺いただけの野ざらしの待合室と、粗末なベッドが無造作に置かれた病室があり、その窓から、化学療法中なのか頭髪が抜け、輸液セットに繋がれながらも、愛らしいまなざしで手を振ってくる病児、それに添い寝をしている母親の姿が見えました。

手術室は8部屋あり、日本人医師のほか現地人の医師も多数いて、同時に数件の手術が行われ見学もさせてもらいました。

パルスオキシメーターを数台準備してプレゼン

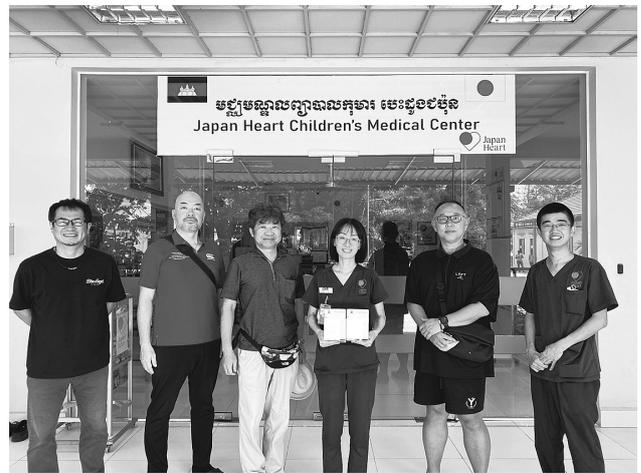
トしたところ、これが欲しかったと大変喜んでいただきました。

ジャパンハートは能登半島地震の際も支援に駆けつけてくれました。最近増えている、公共広告



機構（AC ジャパン）のCMでも目にすることが多くなりました。CMの中で私の訪問したカンボジアの病院も映り込んでいます。

社会のグローバル化が叫ばれてかなりの月日が経ちましたが、日本の場合、語学の壁、保険の壁のせいか医療の世界ではまだまだ途上と言わざるを得ません。公衆衛生、介護分野も含め、私たちの社会貢献がもっとグローバルに展開される日もそう遠くないと感じる旅でした。



【富山県医師会倫理審査委員会よりお知らせ】

本会会員および会員が代表をつとめる機関が行う臨床研究や医の倫理にかかわる行為、およびその公表に際し倫理審査を求められるものについて、機関内に倫理審査委員会が設置されていない場合、本会倫理審査委員会において倫理審査を実施いたします。

現在、富山県医師会ホームページ内「各種書類・様式」に倫理審査の申請様式等を掲載しておりますが、以下についてこのたび更新いたしましたので、申請を希望される会員の皆様におかれましては、ホームページをご確認くださいようお願いいたします。

- ・倫理審査に関するチェックシート（ver 3）
- ・倫理審査申請の手引き（ver 4）
- ・様式1 倫理審査申請書（ver 4）